

## 19 回ふれあいトーク (小学生からの提案ぼくたち、わたしたち、観光大使) 会議記録

- 1、日 時 平成 25 年 11 月 18 日 (月) 午前 10 時 40 分から 11 時 40 分
- 2、場 所 成美小学校 3 階 集会室
- 3、出席者 成美小学校 5 年生 (79 名)  
市長、広報統計課長
- 4、会議次第
  - (1) 市長挨拶
  - (2) 児童発表、市長コメント、質疑

.....

### 意見交換

#### 参加者

- 私たちは、「歴史と伝統の溢れる高岡を安心・安全なまちにして、未来に残したい」という思いで火災予防活動をしている。校区を歩き、防火上の問題点を考えたところ、2つのことに気づいた。一つ目は、消防車が通れないような狭い道が多いこと。2つ目は一人暮らしのお年寄りの家が多いことである。そこで防火の心と呼びかけようと、防火ポスターを作成して配布したり、火災予防新聞を全校の教室やお年寄りの家に届けたりした。今後、ますます高齢化が進むだろう。しかし赤ちゃんからお年寄りまでが安心して暮らせるふるさと高岡となるよう、私たちが頑張っていきたい。

#### 参加者

- 僕たちは、歴史のある高岡、自然豊かな高岡が大好きである。しかし、高岡に住む人や市外からは、歴史のある建物や高岡が生んだ偉人の素晴らしさ、豊かな自然について気づいていないということを知った。そこで、高岡の良さについて調べ、パンフレットやポスターなどで良さを広めていきたいと感じた。まず、高岡の歴史に興味を持ってもらうため高岡の偉人を調べたり、高岡の偉人が作った建物や施設として観光客や親子連れが多く利用する古城公園について調べたり、伝統工芸など高岡の良さについて調べた。それらの高岡の良さを知ってもらうために、前田利長の新聞を作ったり、古城公園の良さをまとめたり、伝統工芸のパンフレットを作ったり、高岡のすばらしい風景についてのトランプを作ったりした。作る時には、自分たちが実際に見たり、調べたり、インタビューした内容を盛り込むことで、オリジナルのものにし、高岡の良さをよりよく伝える工夫を凝らした。高岡の知名度を上げたり、観光客を増やしたりすることで高岡から離れていく人が少なくなるように、自分にできることを考え、全力で取り組んでいきたい。

#### 参加者

- 私たちは高岡を食べ物の視点から盛り上げたいと思った。高岡には代表的なコロッセの他にも、恵まれた自然から作られている多くのおいしい食材がある。そこで、

コロッケのおいしさを伝えたり、高岡のおいしい食材をアピールしたりしたいと考えた。そして、新幹線開通に向けた高岡弁当を作りたいと考えた。高岡には恵まれた自然、おいしい食材が豊富にあるが、農業をする人が減ってきている、その良さに気付いていない人がたくさんいるなどの問題がある。その良さを伝えたり、受け継いだりできるように頑張っていきたい。

#### 参加者

- 私たちは、高岡をよりよいまちにしたいという思いから活動を始めた。より良いまちにするために新聞で見つけた「第一印象が大切」という記事から2つの作戦を考えた。それは、きれいな高岡にするためのクリーン作戦、イメージアップのためのあいさつ運動である。自分たちでできることを考え、実行してきた。人数も少なく十分な取り組みができない私たちであるが、高岡を良いまちにし、イメージアップのために自分にできることを考え、進めていきたい。

#### 参加者

- 僕たちは、高岡の知名度の低さに驚いた。僕たちの故郷である高岡がなくなってしまわないか本当に心配になった。高岡の知名度を上げたいと考えていたときに新幹線開通ということを知った。高岡の知名度、観光者数増加を目指すために、富山県内や県外の地域と手をつなぐことで、観光者数が増えるのではないかと考え、富山県すべての良さを伝えるパンフレットを作り取り組んでいる。今は、一昨年から交流をしている東北の方に交流の一環を知らせる予定である。これからの高岡のために、まずは新幹線の通る県内外の地域と手をつなぐ方法がないか考えたい。将来を担う僕たちが、他地域と手をつなぎ、協力して高岡、北陸を盛り上げていきたい。

#### 市長

- 皆さん、素晴らしい発表を聞かせてもらい感謝している。発表までの仕事の仕方がとてもよくできており、明日からでも市役所で働いてもらいたいほどに大変感動した。
- 皆さんは、発表のために、高岡についていろいろ調べたり専門家に聞いたりしながら情報を集めていたが、これは市役所の仕事でも大事なことである。集めた情報の中から問題点を見つけたり、問題点を改善するために悩むことで気づくことや考え付くアイデアがある。小説家や絵を描く人、ものづくりをする人も毎日スムーズにアイデアが浮かぶわけではなく、悩みながら解決し、前進している。悩むことから生まれる「気づき」はとても大事なことである。
- 考えたことを実行することは大切である。一番嬉しかったのは、皆さんが自分で考えたことを実行してくれたことである。ポスターづくりや、観光地でのあいさつ運動など、皆の前で実行してみたことはとても大切なことである。
- 自分が良いと思うことや自分の考えを相手に伝えるということは、とても大切なことである。どういう風に伝えるかが難しく工夫がいるが、皆さんが、新聞を作ったり、発表の際のジェスチャーを皆で協力したり、誰に何を伝えたいかを考え、工夫して発表してくれたことも素晴らしい。

- 皆で協力することは大切なことである。調べる人やまとめる人、ポスターを作る人、ジェスチャーを交え発表する人など、自分ができることを皆で力を出し合い、大きなことをやり遂げることを学んでくれたことが嬉しい。
- 「高岡を変えていこう」ということを言ってくれたことが嬉しかった。高岡は大伴家持公や、前田利長公など、たくさんの方が歴史を作ってきたが、これからは、皆さんや私たちが新しく高岡の歴史を作っていくことになる。物事を新しく変えたり、新しく作っていくことを「革新」という。皆さんは革新を行う方法や仕組みを今回の学習でつかんでくれたと思う。皆さんは、何か問題を見つけ、いろいろなことを想像し、実効に移した今回の学習を通して、物事を行う仕組みを身に付けてくれた。皆さんが新しい高岡を作る「革新」をしてくれることを確信している。皆さんが気づいたことを市としても取り上げてより良い高岡にしていきたい。

#### 参加者

- 私たちの取り組みについてのアドバイスがあればきかせてほしい。

#### 市長

- 皆さんが今日やってくれたことを、協力し、他の人に伝えて広めていってほしい。例えば 79 人の皆さん一人一人が年賀状やクリスマスカードに高岡の良い所や、高岡に来てほしいということを書けば 395 人に伝わり、さらにその人たちがまた高岡の良さを広めていけばどんどん輪を広めていくことができる。気がついたことを、自分のできることから実行していき、皆に伝えていくことが、輪が広がり高岡の良さを広めていくことになり、高岡を元気にすることになる。それがまた皆さんに戻ってくれば、自分たちの活力にもなり、そういった循環が生まれると嬉しい。今日の取り組みをもう一歩ずつ進めていってほしい。

#### 参加者

- 市長が思う高岡の良さは何か教えてほしい。

#### 参加者

- 市長は日ごろどんな仕事をしているのか、教えてほしい。

#### 参加者

- 高岡を守るために自分たちに何ができるか、教えてほしい。

#### 市長

- 高岡の良いところは、高岡がいつも新しいことにチャレンジし、前進してきたという点である。高岡の伝統工芸の高岡銅器を例にあげると、もともと何もなかったところに、鋳物師が来て鋳物技術をもたらし、鉄器を作りはじめ、銅器産業に変化し、さらにアルミ産業へと発展した。鋳物がなかったら現在のアルミ産業の発展もなかったといえる。また、私の生家は、プラスチックを作る事業をしていたが、プラスチックに熱を加えて溶かして型に入れ、冷やして固体にする鋳物の技術が活かされていた。高岡は、そういった技術を活かし、新しいことにチャレンジし、発展してきた地域である。鋳物だけでなく、文化面でも、高岡は新しいことにチャレンジし、新しい人を受け入れて、発展してきたまちであり、そのことが高岡の誇りに思うと

ころである。

- 皆さんのお父さんやお母さんは、いろいろな仕事をしながらお給料を稼いできて皆さんの生活を支えているだけでなく、家に泥棒が入ったり火事が出たりしないように気をつけたり、皆が学校へ行き、温かい快適な家に帰ってこられるように気を配ったりして暮らしやすい環境を作っている。市長の仕事もこれに似ており、市全体のことを考え災害があった時に備えて訓練をしたり、新幹線が開通するとなれば、市の将来の設計図や市が進むべき方向を示したり、皆と議論しながら何十年後かに高岡がこんなまちになってよかったと思われるようすることである。自分が小学生のころ、読売会館に高岡の未来を表したパノラマ模型が飾ってあり、それを見ながら将来の高岡に思いをはせていたことを思い出した。
- 皆さんにはぜひ勉強をして、どんどん新しいことを吸収してほしい。好奇心と創造力をもって、情報を吸収し、できることからどんどんやってほしい。そして今回の発表のように新しいことに興味を持ったり挑戦した皆の取り組みを中学生になってもそのまま続けてほしい。皆が頑張ることによってより良い高岡になると思う。

以上